

水稻「きぬむすめ」の籾数予測と施肥診断をドローンで行う方法を開発しました

目標基準
 高品質（整粒割合70%以上）
 +
 一定収量（540kg/10a以上）

目標籾数
 29,000~31,000粒



①出穂20日前にドローンでGNDVI撮影



②籾数の予測

③予測籾数に応じた施肥診断方法

予測籾数	施肥診断
29,000粒以下	追肥が必要
29,000~31,000粒	適正
31,000粒以上	次年度の基肥を減肥

開発のねらい

水稻「きぬむすめ」の全量基肥栽培において、品質及び食味を低下させずに安定多収を得るためには、生育診断を行い、籾数を予測する必要があります。そこでドローンを利用した省力的な生育診断による籾数予測及び施肥診断技術を明らかにしました。

新技術の概要

- 「きぬむすめ」の高品質、一定収量の基準は、整粒割合70%以上かつ収量540kg/10a以上で、これらを実現するためには、m²当たりの籾数が29,000~31,000粒を目指します。
- ドローン空撮による「きぬむすめ」の出穂20日前のGNDVI（緑正規化植生指数）と植被率及び土壌施肥管理システムによる未溶出の窒素分量から籾数を予測することにより、当年の追肥判断や次年度の基肥診断を行います。

活用場面

本技術はドローン空撮による省力的な生育診断手法であるため、大規模圃場や多筆圃場での活用が見込まれます。また、将来的には民間の生育診断サービスでの活用も期待されます。